

今月の谷口雅春先生のお言葉

人に対して深切しんせつな心になりましょう

人から好かれるコツとは

人に好かれる人になるにはどうしたらよいでしょうか。愉快ゆかいな明るい人にならねばなりません。愉快な明るい人というのは、騒さわぎ廻まわる人のことではありません。騒さわぎ廻まわる人でも、人から嫌われる人もあるし、じつとしている人でも人から好かれる人もあります。そうすると人に好かれるにはコツがあるに相違ありません。人に好かれるコツの一つは表情にあるのです。表情と

顔付かおづき、感じです。その人の顔を見ると何となしに好きになれる人と、何となしに嫌いになる人とがあるでしょう。この事は全く不思議な問題です。

皆さんは「私の顔は生うまれつきだから仕方がない」とお考えになりますか。そうお考えになりますならば、それは間違まちがいです。顔の感じは常かに変わかわっているものです。今、あなたのお母さんが死にましたという電報が来ましたら、あなたは悲しい顔をなさいます。その悲しい顔の感じはあなたが喜んでいる時の感じとは異ちがいます。あなたが不平ふへいで膨ふれている時の顔の感じと、あなたが深切しんせつに赤ん坊をいたわっていられる時の感じとは異ちがいます。

人にやさしい深切な表情をしましょう

あなたが常に人々に対して深切な好意ある表情をし
ていられたならば、あなたに対つた人は常にあなた
から好い感じを受けましょう。あなたから好い感じを受
けましたら、その相手の人はあなたを好きにならずにい
られないでしょう。(中略)

では、皆さん、人に対したときには不平そうな膨れた
表情をしないで、深切な、愉快的な相手を歓迎するよう
な表情をいたしましょう。しかし顔の様子というもの
は、習慣になつていゝるものですから、今、この人によく
思われたいと思つて愉快に深切に見せかけようとしまし
ても、一時は努めてわざとさういふ表情ができるでしょ
うけれども、すぐ習慣のついた顔付に変わるものです。で
すから学校の先生は学校の先生みたいな顔付をしてい
し、大工さんは大工さんの顔をしておられましょう。い

つも怒つてゐる人はこわい顔になりますし、いつも人に
好い感じをもつてゐる人は、また自分がよい感じの顔に
なりましょう。ですから顔の表情をよくするには一時の
付焼刃では駄目です。いつもいつも、深切な、やさしい、
快活な、好意のある、誰のためにでも思い遣りのある心
を持つていれば、そのような顔になるのです。

『人生読本』 237～239頁

誰にでも深切はできる

善き言葉は人生の宝であります。何がなくとも「深
切」は言葉でできるのです。貧乏では深切ができない、
金がなければ深切ができないというようなものではない
のであつて、私達は深切の第一歩を言葉によつて実行す
る事ができるのであります。人に深切な言葉をかけてあ
げる、人が意気銷沈してゐる時にそれを鼓舞して高め
上げるような言葉を出す、これが深切であります。人が
誰も同情してくれない、淋しくなつて人生を呪うような

心の起った時に、本当に深切な表情をして、深切な微笑を投げかける、これが深切の実行であります。誰だつて微笑はできるのであります。その深切な微笑がどれだけ相手を生かす事になるか分らないのであります。私達は、なんにも持っていないから深切ができないと言うのはあまり物質的な考えに執われているのであります。本当に深切にしようと思えば、どんな場合でもできないという事はないのであります。常に優しい心持をもち、愛に満ちた露いのある心を持ち、人に接する時、拝み合い感謝し合い、相手を尊敬して、その自信を失わしめない。これが深切の中の一番深切になるのであります。

〔『人生読本』183～184頁〕

みな神様のひとつの生命と知ること

人と人とは肉体を見ておりますと、彼と我、我と彼とは相分れているように見えますが、本当はただひとつの神の生命が、そういう具合に分れて出たように見えてい

るだけであつて、決してこの別々の存在ではないのであります。この真理を知るのを、自他一体とか事々無礙とか申します。まことに人に深切をしてあげ、人が幸福になるとこちらも嬉しい。この私達が人に深切をした時の嬉しさ、というものを振返つて味わつてみますと、長く別れておつたとこの親子が再び出会つたような、兄弟または夫婦がひさしぶりで出会つたような何とも言えない嬉しい感じなのであります。これは人間は本来、ひとつの神様の生命の水が吾々に流れ入つて人間となつているので、同じ生命の別れであり、兄弟であり、親子であり、本来他人というものは一人もない。それが別れたように見えていたものが一つに合する——その喜びを感じるのであります。

〔『人生読本』162頁〕

